

皇女和宮の駕籠

上総一ノ宮町に東漸寺という古刹がある。そこに町の重要文化財に指定されている皇女和宮の駕籠がある。

公武合体のため14代将軍家茂に降嫁のため中山道を下った和宮の一行は、京方並びに江戸方含めて総勢2万5千名、江戸時代最大の行列と称されている。

そのお迎えの役を務めたのが若年寄・上総一ノ宮藩主・加納遠江守久微。その労をねぎらって下賜されたのがこの駕籠で、廃藩置県に伴い加納家より東漸寺に寄贈されたものと伝承されている。

近年それに異論が出た。その発端は、傷んだ駕籠の修繕につき、文科省の支援を受けている文化財関連の協会を通じて修復業者にあたったところ、これは「寺駕籠」ではないか？との疑念が出たことによる、と聞いた。

もし、これが単なる「寺駕籠」だとすると、16弁の菊の紋章入りなので、門跡寺院かそれ相当の寺閨のものとなろうが、なによりもこれまでの鑑定の学術的な精度が大きく問われる問題である。

文化財専門家の乏しい地方行政が、この不確かな判断に戸惑っている感は否めないように見受けられるが、史実の正しい継承は重要である。早期にこの判断の真偽の究明が待たれるところである。





和宮降嫁の行列の図より